

【群馬】

建設再開に抗議集会 ハッ場ダム 衆院議員会館に180人



2012年2月24日

ハッ場(やんば)ダム(長野原町)の建設再開に抗議する集会が二十三日、衆議院第一議員会館で開かれ、約百八十人が参加した。ダム、原子力発電所、高速道路、干拓などの大型公共事業をテーマに発表があった。全国百八団体が賛同した。

ハッ場あしたの会の渡辺洋子さん(前橋市)は「河川ムラにむしばまれてきたダム予定地」と題して、ハッ場ダム事業に翻弄(ほんろう)されてきた長野原町の歴史を振り返った。

渡辺さんは、同町を含む選挙区(旧衆院群馬3区)が輩出した三人の首相が同ダム事業に果たした役割を解説。三人とも建設推進の主な理由は「治水や利水とは関係なく地域の総合開発だった」と指摘した。

このほか、原子力安全・保安院のストレステスト意見聴取会の委員の井野博満・東大名誉教授や諫早湾干拓・開門問題に取り組む弁護団などが報告した。(伊藤弘喜)